

らくよう

楽しく 陽るく 荘全体で
お年寄りの人権を守ります。
その方らしい生活が出来るよう応援します。
最後までお世話させていただき準備が出来ています。
特別養護老人ホーム楽陽荘 平成28年9月号 NO. 277

今月、中部中学校生徒のワークキャンプ特集号として発行しました。

8月5日、中部中学校生徒のワークキャンプを行いました。27名の生徒さんが参加され、5つのグループに分かれてそれぞれ食事介助や移動介助の体験をしたり、お年寄りに気持ちよく生活してもらうために車椅子の掃除やシーツの交換なども手伝っていただきました。また、お年寄りに手を添えて一緒に習字をするなどふれあいも楽しまれていました。



夕涼み会では、多くの家族も参加され大変賑わいました。体操で身体をほぐした後、中学生の「上を向いて歩こう」など3曲のきれいな合唱を聴かせてもらいました。その後、お年寄りを囲むように輪を作り、「炭坑節」や「銭形踊り」を踊りました。曲に合わせて手拍子や身体を動かして一緒に踊っていました。

途中、スイカやアイスクリームを食べ、「美味しいわ、もうないん？」とおかわりの声もきかれました。最後に皆で花火をして楽しみました。線香花火を近くでみると「ワーきれいね！」と、喜んでびっくりしたり嬉しそうに見とれていました。



ワークキャンプに参加された生徒さんより感想文をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

「福祉施設体験学習を終えて」

8月5日（金）、僕は楽陽荘で福祉施設体験をさせていただきました。この体験では、普段介護士の方々がされている仕事を手伝いながら、お年寄りと交流をしました。

僕はこの体験で2つ、印象に残ったことがあります。1つ目は対話の時間でのことです。僕は、似顔絵が得意なので、あるおばあちゃんの似顔絵を描いていました。完成した絵をおばあちゃんに見せると、目を潤ませながら笑顔で「ありがとう」と言ってくれました。

2つ目はすべての活動を終えて、一度別れる時のことです。お年寄りの方々が手を振って「またおいでー」と言ってくれました。

どちらも僕にとって、すごく嬉しい出来事です。僕のした活動がお年寄りに喜んでもらえたんだと感じたからです。僕はこの体験を通して相手を思いやり、した行動は相手も自分も幸せにすることを学びました。



早朝から夜遅くまで楽陽荘は中学生の元気な声に満ち溢れていました。若いエネルギーを分けていただきありがとうございます。お付き合いいただいた先生や市社協の皆様方に厚く御礼申し上げます。

《編集後記》

楽陽荘では、先日の神奈川県障害者施設で起きた事件を受けて、面会時間を夜8時までとさせていただきます。夜間にご面会されます方にはご不便をかけるかもしれませんがご協力をお願いいたします。まだまだ厳しい暑さが続いています。どうぞお身体をご自愛下さい。

今月広報担当：今村・熊谷・森川